（月刊）昭和39年（1964）

発行所　福岡県水巻町役場
発行人　西尾　司
編集人　広報編集委員会（企画室内）
印刷所　双羽印刷有限会社
電話（代表）⑥5431

広報 水巻

1月1日号　No. 198

町の人口
（12月1日現在）

人口	33.638
男	16.798
女	16.840
世帯数	7.778

前月比　人口＋35
男＋16人　女＋19人

新春三部作

そよぐ稲穂に黒ダイヤ
移れる町の年の代を
数えて茲に七十年
迎える年の旭天に
放てあしたの
のぞみ矢を

過ぎし路
通りて今に生き来たる
小さき夢は朽つるとも
慧き、あかりをかざしつ、
和みて往かむ
これからの道

背骨なき古き人声高くして
堂宇の中にみつるとき
振子のときを刻むごと
無名の人よ来り出で
昇竜天をつく如く
気根の鵬翼
はためかせ

はずむ建設えの意欲

懸案の重要課題と取組む

新春対談

まず綜合振興計画から 住民優先の町づくり

（西尾町長）

西尾司町長　みなさん、おめでとうございます。寒くなりましたね。

栗川正雄議長　おめでとうございます。

石橋豊蔵教育長　寒くなりましたね。全く。

町長　38年もいろいろなことがありましたが、新年度も微力ながら町民のみなさんのためにつくしたいと思いますので、どうぞご指導のほどお願いします。

議長　いや、こちらこそよろしくご指導のほどを。

町長　39年の抱負といえば、やはり都市計画でしょうね。

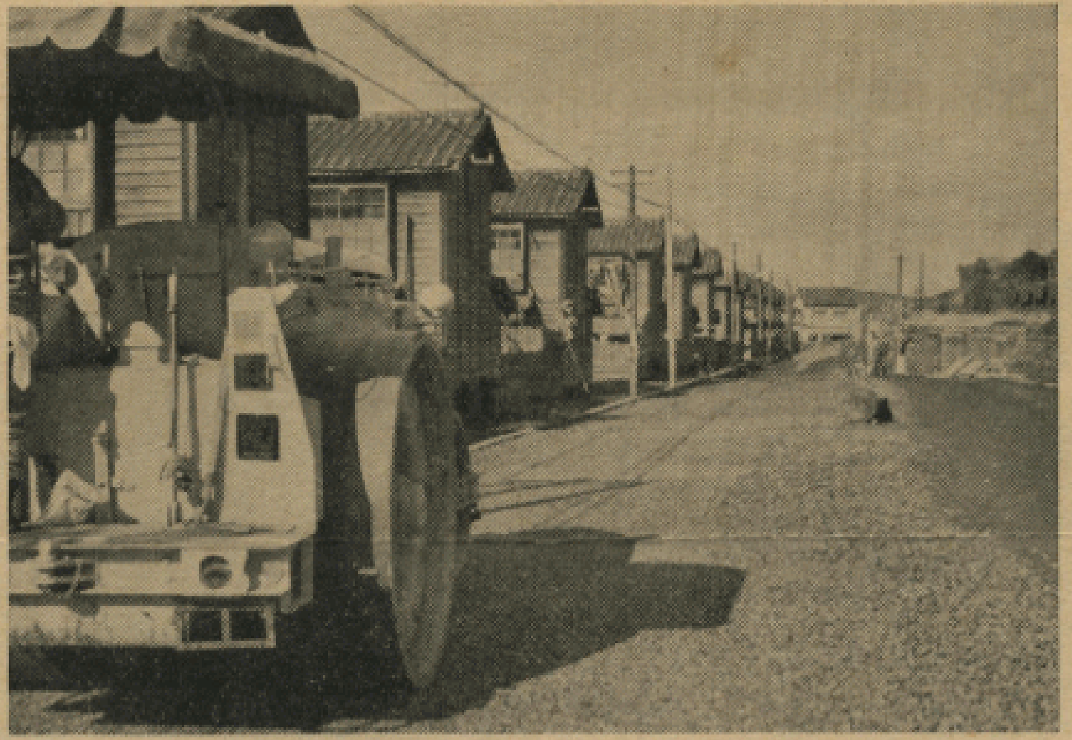
教育長　そうですね、わたしたちの住んでいる町づくりは大事なことですね。

議長　一番の関心事ですよね。町民のみなさんに町長さんと議会はどう水巻町をつくろうとしているのかお知らせしたいですね。

町長　水巻の町づくりは北九州経済圏の中にあるということを念頭において考えていかねばなりません。今から数年前、町づくりの専門家である都市計画協会にお願いして水巻の青写真をつくってもらったことがありましたが……やはり、水巻町単独では大きな発展はないでしょう。私は北九州市の発展に伴って発展する中小企業都市を予想し、それを念頭において住民の生活をもっと大切にする町づくりの計画をたてるべきだと考えます。

議長　議会側から見ましても町長さんの言われるように考えます。しかし、卒直に申しますならば、本町の特殊事情を考慮して実質的な計画を建てる時は遅すぎるくらいだと思います。石炭の斜陽化対策として、本町の発展も対外企業の導入以外にないと思われます。したがって数年前の青写真を本町の特殊事情にあわせてつくり変えるべきだと考えます。この場合、北九州市とのつながりをどうするかと言うことが問題になりましょうが、これが私共に与えられた課題だと思います。

早急に石炭産業一本に依存している現況から抜けられる新しい計画を打ちたててもらいたいと要望します。


水巻――芦屋線の県道拡巾工事（梅之木区附近）

重視したい社会教育

（石橋教育長）

教育長　教育の問題点も本町の特殊事情を考えなければなりません。まず

1、鉱害地だということです。校舎建築にしましても限られた財政のなか[illegible]が大きいのです。机小学校は鉄筋コンクリートにしましたが、[illegible]年から第二次、第三次と学校施設の問題に取組んでいかねばなりません。

2、青少年の不良化対策ですがご承知かもしれませんが、現在は高校生から中学生へうつってきています。

学校はもちろん、社会教育からも強力にその対策を推し進めたいと考えています。

町長　教育は大事ですね、財政の許すかぎり大切にしていきたいつもりです。

議長　教育委員会、学校当局の努力に敬意を表します。不良化対策は大事なことですが学校教育だけでなく、社会教育と相対的に連携を保ってこそその実があがると考えられます。財政的に社会教育は従になっているような気がしますが、社会教育に重点をおくのも町づくりに大切ではないかと思われます。議会も協力していきますよ。

町長　教育は誰でもが願うことですね。社会教育を大切にとの議長さんの言葉に同感します。お互いの権利義務はお互いで守り育てていきたいものです。

教育長　どうぞ今後共、予算面でも充分ご考慮の程、お願いいたします。

近く住宅建設を再開

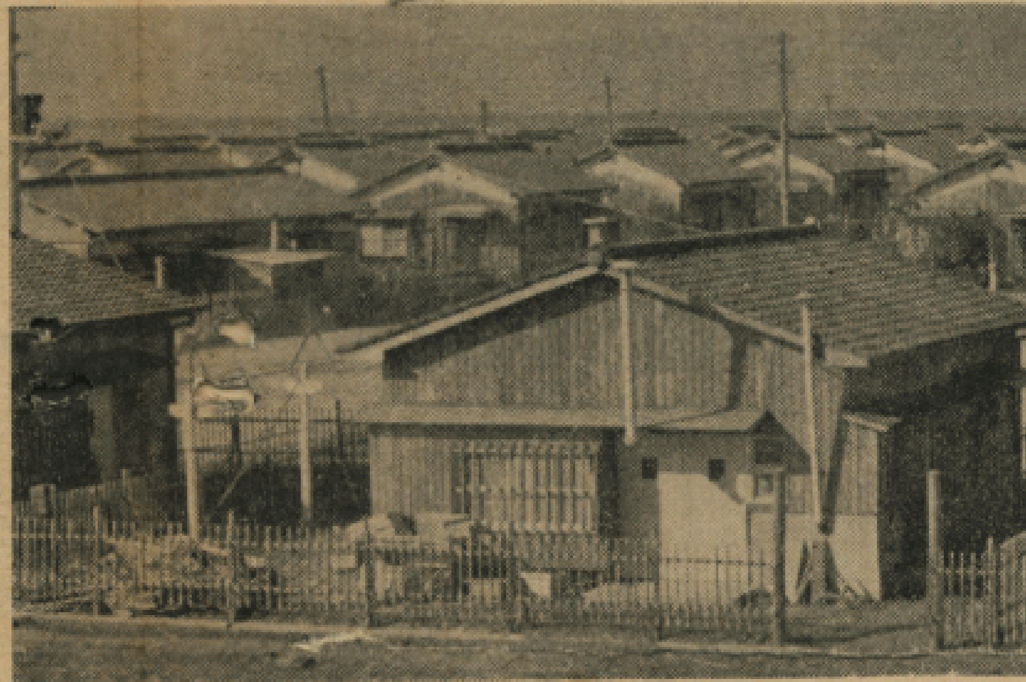
町長　住宅問題は国でも大きな問題になっております。町でも大事に考えております。38年度は県住を建てましたが、町住を建てることは国も補助していますのでやぶさかではありませんが、土地の値が高い管理費が高くつくの難点があります。そこで町住の分譲ということも考えられますが非常に規定がやかましいのですね、悪質な人がいてはということでしょう。なかなかに実現困難ですが、考慮してもいいことだと思います。

議長　議会も住宅には大きなウェイトをおいています。住宅に本当に困っている人が助かる住宅政策でありたいと願うし、そこまで考えなくては住宅政策はマイナスになりはしないかと危惧します。本町の住宅対策に苦言を申しますが……。日炭従業員も住民であります。しかし企業体の社宅対策のための住宅対策では問題があろうかと思いますので、あくまで町の住宅行政としてやられるべきだと考えますが……。

教育長　現在、町の教職員は231名で、大部分は町外の者です。それで住宅には非常に悩んでいます。教育に落ちついて専念できるように、充分考慮していただきたいのです。先生のはいれる住宅がないために教育の谷間になってはと胸を痛めています。住宅のある北九州市へ転職している状態です。教職員共済組合から町長さんのところになにか話しがまいりませんでしたか。

町長　38年の暮に参りました。教育の谷間になってはという教育長さんのお話しのように、先生方に落ちついて教育をという趣旨で20年の月賦償還で資金を貸すからと県教育庁のかたが見えられました。

議長　それはひとつ考えてもいいじゃないですか、ねえ、どうでしょう。


建ち並ぶ町営住宅団地

日炭は安定の見通し

（栗川議長）

町長　他町村では炭礦がなくなったときに産炭地振興対策をたてているようですが、本町はそうでなく、日炭が厳然としてあるうちにその対策をたてているという独自性がありますが、これはいいことだと考えるわけです。

石炭政策の考えかたは規制をしたというだけで、石炭がいらないというわけではなく、残していくのだという考えかたでいくのです。石炭は安定すると、わたしは思います。

議長　産炭地振興と申しますと炭鉱がつぶれるのだと考えがちですが、失業問題などが重視され、周辺の中小商工業、農業など産業振興が、あまり考えられなかったので産炭地振興がふるわない原因になったのではないかと考えられます。

石炭は一定量が必要なのです。

今後は炭鉱のスクラップ化対策と振興育成といった二つの面からの産炭地振興対策が必要だと考えます。

本町の場合、企業者、労働者、町行政、この三つの協力と努力により日炭を維持振興させることが産炭地振興になりますし、議会も協力して町の発展に寄与したいと思うのです。

先般、名古屋市で産炭地振興のための懇談会がありましたが、九州を見直したという空気がありました。それは、敷地はあるし労働力は豊富、賃金ベースも関東、関西にくらべて割合低いということです。にもかかわらず財界が腰をあげないのは、

1、鉱害地だ

2、労働管理が容易にいくだろうか

の2つの問題があるようですね。

日炭を堅実に維持し、そして産炭地の振興をはかるためにこの2点を今後どういうふうに解決していくか、その方法を考えています。

鉱員さん只今入坑

目安がついたし尿処理場

町長　一般的福祉施設は広域的見地から考えないと立派な施設はできません。

し尿処理場、塵芥焼却場など一町村だけでは、とうてい立派なものはできないと厚生省も指導しております。遠賀郡と中間市と一体になってやっています。し尿処理場もだいたい目安がつきました。次はごみ焼き場、伝染病院などの話もポツポツ出ています。

保育所なども将来は取り扱う抱負はもっていますが、財政とにらみ合わせてやっていくべきではなかろうかと考えます。

議長　限られた予算であり幅広い考えでいかねばなりませんので町長さんの言われるとおりに推し進めていただきたいと思います。

町の東西各地区で保育所の設置をという要望はもっともであり将来、財政とにらみあわせ、必要度を充分考慮して逐次設置しなければなりませんね。

議長　炭鉱の斜陽化に伴ない失業者が増大していますが、事実は本人が希望してやめた人が多いようです。失業は町の責任だという考えはあらためねばならないと思うのです。

失業対策は県、国の補助でやっていますが、町長が親心から見舞金など支出されるのはいいことですが、考えなければならない問題があるようです。このことは生活保護費にも言えるようです。

見舞金にしても、お見舞として支出するのであり、要求して、かちとったという考え方はいけません。被生活保護までいかないボーダライン上の人にこそ見舞金を出すのがそれこそ公平な措置だと考えます。

富める水巻へ

町長　39年度の産業対策は、やはり石炭産業が持続していくことが大きな課題であり、それに伴なって商工業の発展も考えられます。町の発展も日炭に頼らざるをえないので日炭の経営維持を労資の協調努力によって持続していただくようにお願いしたい。

また北九州市の発展のなかで工場誘致をして町の発展をというようそうもあるかと思います。

しかし、み力の点ではどうしても町は欠けているので、日炭の堅実な経営を切望し、北九州市の発展も祈りたいものです。農業も構造を改善してこそ発展策はあるかと考えられます。

議長　石炭、農業、商工業の三本柱により町の産業はなりたっております。石炭はまだ余命があり、私は一町民としてこの余命の続くことを祈ります。

町は行政的な面からも水巻町の産業経済の中心にありますので石炭には埋蔵量に限界がありますが、その限界を見きわめながら他産業の誘導をしていただきたいのです。

昔も今も農業があくまでも中心でした。それが石炭産業によって農土は狭められ、そして鉱害です。石炭産業によって農業をしていた人の心情を害していたことを卒直に批判したい。

商工業は石炭産業の恩恵をうけましたが農家は被害者です。石炭の斜陽化に伴ない補償も望めない状態です。農業構造改善により近代農業へと脱皮しなければならないと思いますが、これには強力な行政措置が必要だと思います。

マスタープランのなかにもとりいれて指導していただきたい。

町長　治水問題ですが、堀川、曲り川の周辺の住民が県に責任をもってやっていただくということです。

川をさらえるということではなく排水をどうするかということです。国の施策で掘ったので、炭鉱に責任があり、国の責任もあるということで解決しなくてはいけないと県に働きかけていきたい。幹線道路の整備拡張なども是非やりたいことですね。

深刻なデルタ地帯の悩み

町長　治水問題は本町の大事な課題でありますが、堀川、曲り川の排水、これを解決していかねばなりません。ご承知のように県営河川であり、県と接渉し、本町を左右するこの問題を処理していきたいと考えています。

39年度に県の抜本的策をたてていただくよう処置していきたい。上流に水が停滞している状態です。デルタ地帯といわれますが、この言葉は厭ですね。この言葉を返上するように対策をたててもらうべく努力したい。本町だけでなく、中間市、折尾（北九州市）とも連携をとって、治水、特に排水の面から解決つけるという大きな目的のもとに抜本的対策をたててもらうべく運動をおしすすめていかねばなりません。都市計画のなかにもりこみます。

議長　町長さんの申されたことに同感ですね。机のポンプだけではとうてい排水は駄目です。この治水の問題は物心両面にわたり犠牲になっているのが町民であります。現在はその場しのぎでことを処理していますが……事業主の処理はとうてい期待できません。炭礦－町－県、国。この三者が一体となって速やかに恒久的、根本的な対策をたてるべきです。

大水が出ますと大事なことだと思うのですが、その場がすぎると根本的なことが忘れられるという状態です……。町長さんの計画に議会も同調し、県や中央に働きかけ今年こそ治水に対する抜本的対策をたてようと思います。

正月のしおり

山積の粉炭ダンプや初荷旗

食

お正月は楽しいものです。家庭みんなで祝う団欒、それは元旦のお雑煮でしょう。いろいろな作り方がりますが、こんなおぞう煮はどうでしょう。風味のあるものです。

塩さけのおぞうに（五人前）

切りもち10ケ　にんじん80瓦　ほうれん草一ワの半分　さといも百瓦　ダシ5カップ（塩のはいっていないもの）

塩さけは薄い塩水に二時間ぐらいつけて塩出しをします。これをサイの目に切ってからダシ汁のなかに入れ、しばらくの間煮ます。ほうれん草は塩ゆでにして、さましてから三センチの長さに切ります。大根、にんじんは、いちょうの形または短ざく形に切ります。さといもは一センチの厚さの輪切りにしてゆで、ぬめりを洗い落とします。

なべに塩さけを洗た汁と、大根、にんじん、さといもを入れこれがやわらかくなったところで塩ざけを加えて煮込みます。塩味が薄ければ、しょうゆをしこし、したし、最後に化学調味料を加えます。「もち」は、まわりの粉を洗い落としてから焼かずになべに入れ、やわらかくなるまでほんの一息だけ煮ます。

これを器に盛ってほうれん草をあしらえばできあがります。

衣

晴れ着を着る機会の多い時期です。万一よごれたときのとっさの処理は次のようにします。

しょうゆ、酒のシミ　かわいた白い布を下にあて、ぬるま湯をガーゼにふくませてから、下の布地によごれを移すような心づもりで、しみの上を軽くたたきます。絹織物の場合は縮んでしまうから、さっと手早くします。

くつずみ、コーヒのシミ　ベンジンでふきとるのですがコーヒの場合は、先にぬるま湯で処理をしてからのほうが効果があります。

くだもののつゆ、汗のシミ　汗はアンモニア水でふきとり、くだもののつゆはぬるま湯で処理をしておいてからアンモニア水を使います。

ひどいよごれの場合とか、布地をいためる心配のある時は、専門家に早くまかせたほうが無難です。一着がだめになるかどうかということを考えれば、クリーニング代を出すことを惜しまないほうがよいでしょう。

なお、晴れ着をしまう時には折り目のところに新聞紙を細くまるめてはさんでおくと、布地にきついしわができません。

遊

◇私は笑いません

みんな円くなって座ります。誰かが「私は決して笑いません」といって、ただ1回だけ「ハ」といいます。左隣りから順番に、2番目の人は「ハハ」と二言いい、3番目の人は「ハハハ」、4番目の人は「ハハハハ」とはの字を一言ずつふやしてゆきます。

はじめの宣言どおり、その間は笑ってはいけないのですが、これがどうして笑わずにいられましょうか。笑った人は定められた罰を食います。こどもさんたちの遊びです。

◇送信リレー競争

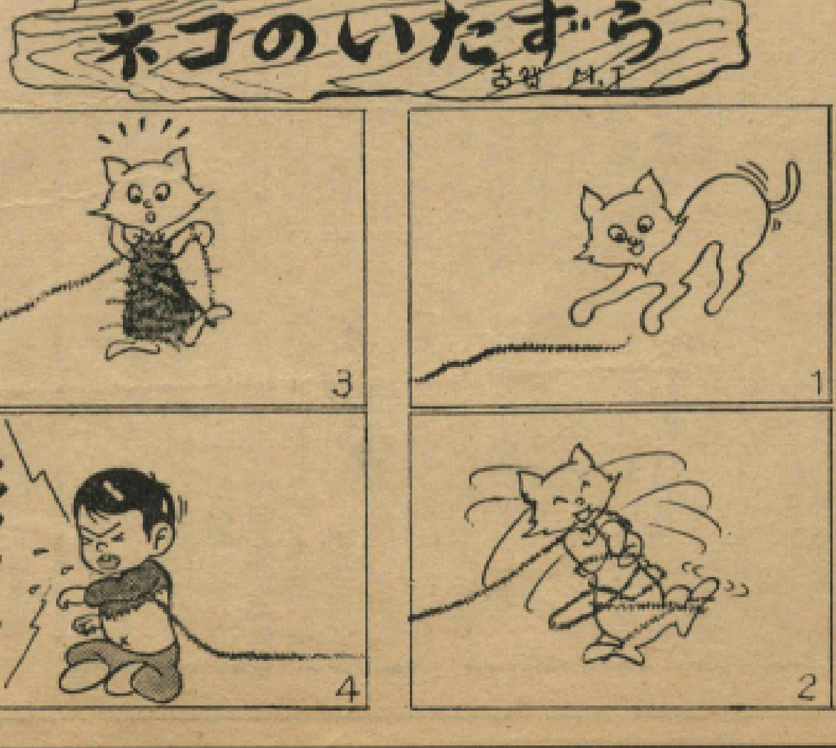
まず全員を紅白二組に分けます。人数が多ければ三組で競争するのもよいでしょう。審判が一人必要です。審判は紙になるべく簡単な「とんび」「ダンス」「ベン・ケーシ」などの字を書いて列の一番端の人に渡します。

端の人は、隣りの人の背中にその字を書いてこれを伝えます。書かれてわかった人は、こっくりします。わからなければ首を横にふります。わかったら、またそれを隣りの人の背中に書いて伝えます。

最後の人が、背中に書かれた「ことば」を紙に書いて、審判のところへ持ってゆき、正しく[illegible]えて早い組が勝ちます。

勿論、ゲーム中は審判以外は口をきくことは禁ぜられます。

背中に文字で伝えるのは、やってごらんになれば分りますが、なかなか難しくて、しかも親近感を増すよい遊びです。



（投稿者、古賀の岳藤政敏氏）

火災予防ポスターの懸賞募集についてお願い

火災予防ポスターの懸賞募集を行い、火にたいする注意をたかめ、あなたの生活の安全に役立つことが出来ればと、左記要領により募集しておりますのでふるって応募ください。

1、主催　消防庁・日本消防協会　読売新聞社

2、課題　火災予防に関するポスター

3、規定　応募用紙の大きさは縦53センチ横38センチ、3色以内（色は自由）用紙の裏面に住所氏名職業年令、小中学生は学校名も記入すること

4、賞　1等2万円　1点　2等1万円　2点　3等5千円　5点　佳作2千円　10点

5、締切　昭和39年2月末日

6、送先　東京都港区芝西久保明舟町81日本消防協会

1963年をかえりみて

10大ニュース

1月　県道水巻―芦屋線の拡巾工事着工
　　（旧日炭専用鉄道跡）
　　水巻町誌完成
3月　水巻高等学校閉校さる
4月　町長・町議会議員選挙行わる
6月　水害発生
7月　農業構造改善事業地域指定を受く
8月　古賀新生街の大火
　　被災家屋5棟7世帯30人が焼出さる
10月　日炭合理化案提示さる
　　（その後徹回）
　　朴小学校改築に着工
　　（鉄筋コンクリート造）
11月　産炭地振興特別委員会発足す

三池の友達へ義援金

朴校の良い子たち

朴小学校（木藤善己校長＝児童数790名）の良い子たちの自治会である朴子供会が11月末に三池災害の話合いをし、各家庭にある古新聞を集め、その売上げ金をおくってはと決めました。

12月初に売上げ金、3千3百42円を持って同じ炭坑に住み、人のことではない気がすると、可哀そうなお友達を慰め、力づけたいと役場の窓口に送ってきました。

以下、佃、山田両先生と良い子たちの一問一答。

―事故を聞いてどう思いましたか

長谷川誠也君「同じ炭坑に住んでいるので人ごとではないと思いました」

坂口圭子さん「すぐに父を思いだしました」

立田信久君「まっさきに父とわたしを思った。泣くに泣けない気持がしました」

下川義孝君「万一、高松にも大事故がおこったらと心配でならない」

岩井泰生君「あとに残った家族はこの後どうして生活するのだろうかと心配です」

立田信久君「ガスマスクをつけるようにしようと新聞はいっていますが、いいことですので日本中の炭坑でつけたら良いと思います」

坂口圭子さん「坑内の設備を大切にして安全な職場にしてほしいと思います。」

小さな親切

（朴自治会の話し合い風景）

老人クラブの結成を進めて来ました

38年7月11日、老人福祉法が施行されると同時に、当町でも、おとしよりの方に老後を、よりたのしく過していただき又老人として多年の経験を生かし社会につくしてもらうために集まって、そして和を計るいみで地区別に老人クラブの結成をすすめてまいりました。その結果すでに16地区にクラブの結成を見ています。こんども全地区の、おとしよりの皆さんの御協力をえまして、老人クラブ結成を援助して行きたいと思います。

伝染病はかく防いだ!!

38年はいろいろな伝染病が流行して、みなさんも大変心配されたことと思いますが、水巻町では保健衛生の仕事をいろいろ行なっていますが、そのなかでも特に予防接種に重点をおいて伝染病の予防対策に取組んでまいりました。

医師会をはじめ町民のみなさんのご協力のおかげで、他町村にひかくして伝染病を患った人が少なかったことを、喜びたいと思います。

今年も元気ですすみたいものですなお38年中の患者数は左の通りです。

赤痢（含む疑2名）　24名
日本脳炎（疑）　1名

募金事業へのご協力ありがとうございました

❶ **日赤募金**

昭和38年の日赤募金は、21万5千8百円でした。さっそく日本赤十字へ送付いたしましたのでお知らせいたします。

❷ **共同募金（赤い羽根）について**

例年皆さんにごめいわくをかけております共同募金も38年12月で26万6千1百47円になりました。当町といたしましては48・4%でした。これが100%でしたら還付金がくるわけです。その還付金を社会福祉協議会の予算に充当し社協としていろんな事業を行なっていくことにしておりますが、38年は前に述べた通り48・4%ですので還付金が配布されませんでした。

こんども、この趣旨にご賛同下さいましてご協力下さるようお願いいたします。

なお、樋口地区については炭界の不況にもめげず160%という高成績でしたのでお知らせいたしますと同時に、県社協へ表彰方を具申することにしています。

近く着工か

し尿処理施設

当水巻町は全国でも非常に高い人口密度の町村でありますが、逆に言えばし尿処理については一番問題のある町といえます。昨年までは業者に処理手数料を払えばなんとか片づけて貰えましたが、今年の6月頃より所謂「糞づまり」の状態を呈し、炭礦社宅はもとより一般町家も糞につかる一歩前までに成り放置しておれない状態に追いこまれました。これは従来業者が農家とか或は山の中のため池とかに処理していたのが飽和状態になり、加えて農家がし尿を使わないことになった為です。この状態は町執行部と議会と協力し百方奔走の結果漸定的に芦屋町に御願いしなんとか解決致しましたが、これは決して根本的な解決にはなりません。従って本年5月同じ状態にある中間市、遠賀郡の町村と話し合いの上「中間市他遠賀郡4ケ町村環境衛生施設組合」を発足させし尿問題と取り組んでおります。

し尿を処理する方法は化学方式酸化方式、消化方式等色々あるわけですが、本組合では一番安定性のある消化方式に決定致しました。

この方法によるとし尿を投入すると菌の働きにより最終的には水と沈澱した汚泥（約20%）とにわかれ、水は塩素により殺菌して放流し、汚泥は乾燥（臭気もなくパラパラの粉末になり肥料として使える）して分譲処理を致します。この様なすぐれた工場のような処理を致します上10万人の施設である為約1億5千万円位の費用を要しますので、これを国の補助金、起債とその残りを各市町村で負担致します。当水巻町も人口に応じた負担を致さねばなりませんので財政的には相当な痛手をうけますがやらねばならない施設と思っておりますので是非完成致したいと思っております。この事業は3ケ年計画で実施されるよう認可を受けておりますが急がねばならない事業なので、2ケ年で完成するよう厚生省に働きかけております。このような進行状況でありますので昭和39年度末頃には皆さんに心配をかけないですむ立派な処理施設が出来るものと確信致しております。

生活保護世帯が激増しています

炭界不況のためか、当町の生活保護世帯は毎月増加の一途をたどり昭和37年12月と38年12月を対象として見ますと左の表の通りです

	昭和37年12月	昭和38年12月
世帯数	639	781
人員	2,120	2,627

この数字は住民千人に対し74・5人が保護世帯となっているわけです。尚参考のために申しますと、同じく千人比で全国が18人、福岡県が65・1人、遠賀郡が96・6人福岡県で当遠賀福祉事務所管内の保護率は10位となっております。なお田川郡が一番高く198・4人、県内を全般的に見ますと筑豊地区が絶体的に高く市部では北九州市が一番高いことになります。このことは色々な問題をなげかけておりますが、当町としてもあらゆる施策を動員して失業者をなくす運動をより強く推進しなければならないと思っております。

なお従来保護の適用について色々な評判がありますが、担当しております福祉事務所の職員の数にも問題があったわけで従来一人で200世帯も持っていましたが最近やっと職員が補充され大体80世帯に1人位までになっております所長さんの話では、これで新規申請の取扱いは勿論、従来の保護世帯に対しても職業の斡旋、収入の認定等々、きめのこまかい世話ができ、更生の実をあげることができそうだとのことでした。このような状態でありますが、皆様のご協力をお願いして議会と共に努力してゆくつもりであります。

二等陸・海・空士第四次募集

志願案内

受付は12月1日～39年2月29日まで給与、身分、志願手続きをお知らせしますので、くわしいことは役場受付まで

（正）（月）（の）（今）（昔）

宮井貴蔵

皆さん明けましてお目出度御座います。昔の人の言葉に「光陰矢の如」と言うことがありますが、一年の経つのが何と早いものか齢老いますと一年が驚く様に早く、全く「人生夢如」で過き去ってゆきます。私が追放で退官したのが五十才の時でしたが、それからの十七年は夢の様に過ぎまして最早何事も出来ない老人になって仕舞いました。

さて私に正月の今昔について何か話せとの事ですが、未だ昔を語るには現在の平均年齢を若干越した位ですから、先輩の方々に対しておこがましい事ですしそれかと言って責任は果さねばならず思いついたのが六十年位前の子供の頃のお正月の思い出で、次に四十年位前の遠賀郡役所時代の拝賀式、次に三十年位前と二十年位前の県庁時代の拝賀式風景でも想い出の儘にお話し致しましょう。先ず私が物心ついた頃のお正月には親族や家と親しい人々の年賀廻りが次々に訪れられ終日お客でにぎやかでした。お座敷の屏風のかげには御馳走が常に準備されて、来られた人に酒が出されて居りました。夕方の人は殆んど酒に酔うて、中には寝込んで仕舞い家の人が起すのに大変困って居た事を記憶して居ります。又学校に行く位になり一番の思い出は何といっても岩瀬の祇園様詣りでした。三人又は五人打ち連れて五銭か十銭の小使銭を貰って頃末の当時の貴船様前の赤水の流れる川淵道を両側の蓮根池の所から貝殻場より鯉口の田圃道に入り互いに先になり後になり小走りに走って、吉隈の一本松に出て首の落ちた地蔵様の首を置いたりして堀川に出て、祇園様の石段を上るとお神様に詣るより先に店詣りでパチ（円形の厚紙）を買うのが嬉しく、これには日露戦争の名将の顔絵がついて居りました。店は飴類が多く又金平糖も懐しい想い出の一つであります。帰りには新調の正月下駄の緒が固くて足に豆が出来て素足になって、下駄をさげて帰った事もあります。それから毎日パチの勝負に夢中で「おせっち」も忘れて遊んだものです。

次は浪花節語りの様に六十年前より一足飛びに四十年前の遠賀郡役所の拝賀式に移りますが、当時郡書記の定員は十二名で他は技術員、郡吏員、その他でありました。私は御真影の係でしたので郡長以下御真影の前に整列して低頭しますと、私は前に進み出て静かに御真影の幕の紐を引き、席に戻りますと先ず郡長、庶務課長、郡視学、郡書記その他の順に進み出て最敬礼を致し、最後に判任官代表の郡書記が郡長の前に進み出て次の申告をします。『判任官並びに判任待遇者一同に代り謹みて新年を賀し奉る』すると郡長は厳かに『その旨言上に及ぶ』これを以って式は終了します。処が或る年の拝賀式に代表郡書記が余り固くなって新年を賀し奉ると言うのを『天長節を賀し奉る』とやってしまった。さあ大変一同笑うにも笑えず郡長の顔色を見て心配した事があります。その代表郡書記青くなって一目散に自宅に走って帰って寝込んでしまった笑い事もありました。

当時の礼服は郡長以下判任官は山高帽にフロックコートでその他は紋付袴でした。モーニングはその頃は礼服でなかったので官吏は着ませんでした。

次に三十年前の県庁の拝賀式は又見事な派手なものでした。昇庁退庁の際は門前は見物人が足を止めて居りました。知事は勅任官の大礼服金色の輝く服装でした。知事は大体従四位か又は正四位勲三等でしたから喉の下に勲三等を下げて直刀をつけて居りました。各部長以下奏任官判任官その他帯勲者は勲章は全部佩用ですからきれいなものでした。私は当時判任官でしたが勲章記章は五、六個佩用して居りましたので勲章を持たない連中からやんやん言われて居りました。服装は奏任官で課長は殆んどシルクハットに燕尾服、この燕尾服が判任官時代あこがれでした。その他の奏任官、判任官並に待遇官等は山高帽にフロックコートでした。式は知事に始まり各部長は単独拝礼続いて奏任官、有位帯勲者、判任官、最後が県吏員その他となって有位又は帯勲者であれば主任県属よりも先に拝賀をする事が出来て、したっ端でもこの時ばかりは主任を尻目に得意顔でした。

また警察部関係は警部以上は礼服の時は肩には円座肩章に、金又は銀の房が垂れ礼帽も線が美しく非常に立派でした。退庁後は私共官房の者は皆知事や部長官舎に年賀客に対する応接や接待の加勢に行くのが例でありました。次に二十年前は最早、戦争の激しい時で以前の様に華やかでなく、知事以下制定の国民帽に国民服、それに儀礼章をつけての国防色一色で極めて質素且つ簡単な行事でありました。

私も奏任官になり課長にはなりましたが、あこがれのシルクハットに燕尾服は戦争の為に遂に身にすることもならず、若い頃よりの夢は全く夢と消え去りました。時代の変遷とはいえ昔は祭政一致を基とした正月行事も多くありましたが、現在の正月は神とも又政事ととも離れた個々の人間のみの正月になり、年と共に種々の行事もなくなり心淋しい様にもあります。私も六十八の正月を迎えまして元気な様ですが身心共に衰えて来ましたので、時に昔のことを想い浮べて元気を出す様にして居ります。以上思い出の儘に話したので言葉の足りない点も多いと思います。では皆さんのお多幸を祈り以上で終ります。

（筆字は筆者、朴在住のかた）